

めだかの学校だより

平成18年8月 特別号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：浜松市引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

お知らせください！

報告2 ■ 「かがり火」 発行人

菅原敏一めだか

朋アリ遠方ヨリ来ル 亦楽シカラズヤ



感動的な舞台というものは演じる俳優だけでなく、観客の感性もプラスされて生まれるものだ。

どんなに俳優が上手でも観客が無表情ならば、いい舞台は生まれない。

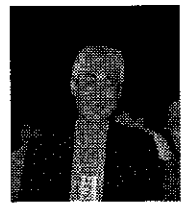
俳優と観客、そして、観客同士までが同時に同じ空間を共有しているという連帯の感情があつて、劇場は昂揚感に満ちあふれる。交流会も同じではないだろうか。

6月9日、高知県馬路村で開催された「かがり火視察ツアー&交流会」は、まさに優れた舞台だった。

主役は、馬路村農業協同組合の代表理事組合長の東谷望史さん。組合長といっ

報告3 ■ 鈴木正士めだか

四国旅の思い出



「ゆずの森」完成記念、高知県馬路村視察ツアーでの交流会に参加してもう2ヶ月になる。月日の流れは本当に早いものだ。

カガリ火の発行人である菅原敏一さんの呼びかけにメダカの事務局長のバラさんが応え、メダカの学校と共同企画ということ、メダカの学校の研修遠足となった。バラさん他9名でワゴン車2台に分乗、高知県馬路村それに斜め西端の愛媛県内子町から松山市の道後温泉そしてまた反対側東端の香川県の高松市さぬきうどんツアールと四国中を東へ西へ泳ぎ回った。

朝4時に出発して9時間で到着予定だったのだが、楽しく横道にそれたり途中通行止めにあつたりで馬路村についたのが午後5時前、12時間余もかかってしまった。

結局新築になったゆずの森加工場に3時間遅れで到着、カガリ火の菅原さんや馬路村農協長の東谷さんの計らいで巧みに遅れが調整され、概要説明を受け静岡組の自己紹介として安田川河川敷での大交流会へと進んだ。

川原での交流会はテーブルがいくつに

でも、今年の春になつたばかりで、肩書きの持つ権威はどこにも感じさせず、土佐弁と人懐っこい愛嬌のある顔が人を惹き付ける。人口1170人の村で、「ごつくん馬路村」ぼん酔しようゆゆずの村」などユズの加工品で31億円のビジネスを成功させたのは、彼一人の力ではないだろうけれど、少なくとも東谷さんは周囲の人間が応援したくなるようなオーラを発していた。

この日は夜来の雨が、参加者が集まり出したころから奇跡的に晴れ上がった。人智の及ばない偶然性は、夕刻からの安田川河原での交流会を一層盛り上げた。

安田川で取れたアユとウナギ、そして土佐の名物のわら焼きカツオなど郷土料理が目一杯並んだ。

同じ体温を持つている人たちの出会いは、目と目があつた瞬間に、お互いに日々何を考え、どんな人生を送っているのか諒解してしまうようだ。

私の好きな言葉に、「朋アリ遠方ヨリ来ル 亦楽シカラズヤ」というのがあるが、同じ考えを持つ人との出会いほど楽しいものはない。

今回は、ユーモアと機知に富んだ「めだかの学校」の生徒さんたちにたくさんご参加いただいたおかげで、馬路村がなごやかな笑いに包まれた。あらためて御礼を申し上げたい。

めだかの学校だより

めだかの学校だより特別レポート

■参加めだか：渥美末夫、岩井一代、上嶋裕志、榊原幸雄、榊原淑友、菅原敏一、鈴木正士、永田和子、水島加寿代、水野忠義、(敬称略・あいうえお順)

報告1 ■ 水野忠義めだか

馬路村&内子町&松山、道後、うどん旅



1日目 馬路村ゆずの森工場完成記念視察ツアー→川原で大交流会

2日目 馬路村東谷望史さんの話→村巡り→内子町白壁の町並み→内子町活性化の立役者岡田文淑さんの話

3日目 内子町石畳の宿→内子座→松山→秋山兄弟生家→道後温泉→屋島うど

ん

※水野めだかによって、分刻みの旅行程報告が作成されています。ご希望の方は

も分けられ、その一つ一つに馬路村の役場の職員、農協の職員が1人ずつ配置され、そのテールのお世話人となっていた。それに全国のカガリ火の支局長達が好き好きに座り、ゆず寿司、天然鮎飯、ゆず胡椒盛など特産物やゆず三味の食材とビールや地酒で楽しい交流会となった。どこにでもありがちな行政VS農協といったような構図ではなく村の人達が一丸となった暖かな素晴らしい接待をいただいた。それが東谷組合長の姿勢からもうかがえる。その思いが年間30億円という各種のゆず製品の製造販売にもつながっているのだと思う。

後日談だが、馬路村の上治村長から団扇のメッセージいただいた。また農協職員や役場職員からお礼の葉書をいただいた。なんとすごい村なんだと改めて思う。次の日は馬路村のゆずの加工場やゆず畑を見せただき、カガリ火の菅原さんの案内で愛媛県の内子町へ、内子町は昔の町並みを保存している素晴らしいまちだ。ここにも岡田さんと言う体を張って町並みを保全している元役場職員がいた。

内子町では昔の家屋を復元したという民宿「月乃家」に泊まりご主人の山口さんや案内をいただいた岡田さんと夜遅くまで話しこんだ。自分の想いを熱く語る素晴らしい人たちだった。翌日はこれが農村だという自然そのものの集落を見せ

ていただいた。私達のところも田舎なのだがその風景たるや感激ものだった。

そして愛媛県へ、松山城を散策した後、道後温泉につかり疲れをしつかり癒して帰路へ。

メダカの学校の研修遠足。熱い思いで地域を磨いている素晴らしい人達、またそこにあるかけがえのない地域に触れ、元気をもらおうとともに、自分の甘さをふりかえることができる良い旅だった。参加したメダカ生、お会いした素晴らしい人たちに感謝です。

上治村長からのメッセージ

森の風をお届けします。初夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

先日は遠い所、当村まで足を運んでいただき有りかとうございました。

小さい村ですが先人が守り育てて来ました地域の資源を活かし、定住交流人口の拡大に努めていきます。

これからも応援よろしくお願いします。このうちは森から生まれた商品です。様々な活用ができますのでご用命ください。

馬路村長 上治堂司



報告4 ■■榊原淑友めだか

「高知県馬路村の村民になりました」



高知県の柚子の村、馬路村農協組合長の東谷さんのお話を伺い、交流会に参加して特別村民に申し込んできました。今日その住民票が届きました。なんとコードは1067番馬路村の人口が1100人ですからほぼ同じ位の日とが特別村民になって居るんですね。そしてもっとビックリしたのが柚子関連商品の売り上げが31億円だそうです。村民一人当たりの売上は280万円だそうです。私が東谷さんと会った10年前には確か3億円くらいだったはず。何ともすごい村です。翌日の10日11日は愛媛県の内子町の町並み再建と農村景観の保存を勉強してきました。ここにはすごいリーダー元役場職員の岡田さんが居ました。町並みを保護し始めて30年何ともすごい話です。中でも屋根の付き橋のある石畳地区の農村景観は今まで私に見た景観の中でNO2素晴らしいです。皆さんも一度どうぞ。感謝

報告5 ■■水島加寿代めだか

食べ・呑み・出会いの満足旅



今回目指した高知県馬路村は人口1200人足らずの小さな村。標高1000m級の山々で隔てられている場所で、高知市内から1時間半近くかかり、しかも我々が訪ねたときは工事のため1時間に10分間しか通行できない規制をくぐりぬけて到着しなければならなかった。運よく(?) 私たちは約15分ほど待つだけですみ、お陰でドライタイプの疲れを癒すちょうど良いリラックスタイム。そこを通過してしまえば馬路村はもうすぐそこ。真っ白い雲が浮かぶ青空のもと、清流のせせらぎと雨あがりの中に輝く緑、心地良い鳥のさえずりが、私たちを迎えてくれた。

こんなに素朴な地域が、今や30億円の地場産業で輝く村として知られている。加工場・配送センター・事務所が一体となった馬路村農業協同組合「ゆずの森」は、地元の木をふんだんに使って建設された立派な建物だった。しかもいたるところに人を迎える温かな気遣いがあり、働くスタッフは山奥の村とは思えないほど若者が多く、その誰もが目を輝かせ自信に満ち溢れているのが印象的だった。

馬路村活性化の立役者・東谷望史さんはこう話す。「1億を越すまでに10年かかった。でも営業に各地へ出掛けるのではなく、来てもらえる村にしようと決まっていた」。

最初パートさん3、5人を雇いはじめたゆず製品販売事業、今ではゆず加工場の従業員は60人、農協職員20人になった。その日に収穫したゆずはその日に搾る。去年の収穫は豊作時より少なめの650トン。洗ったゆずをまるごとつぶして搾り、皮と汁とタネに分ける。以前は廃棄されていた皮も堆肥化に成功。有機農業への転換をスタートさせている。

さらに馬路村に来てくれた人たちがゆつくりしてもらえる空間を創りたい。そんな15年前の想いを膨らませ、遊びにきませんかのPRを押し進め、宿泊、食事、土産の整備に力を注いだ。さらに観光客が引き寄せられるのは、ハード設備だけでなく、山や川での遊び方情報などソフトが充実されていること。そして村で出会った人たちみんなが、「ようこそ馬路村へ」という温かなひとつの気持ちで出迎えてくれることなのだ。それを如実に感じさせてくれたのが、夕方からの交流会だった。

全国からの来訪者約60名、馬路村の役場と農協などの職員をはじめあらゆる関連の村人約30名が安田川の川原に集合。天然鮎、カツオのたたき、ゆず寿司、天然うなぎなど、あらゆるご当地のご馳走

とともに地酒やゆずジュースでもてなしてくれられた。にこやかな笑顔が素敵で上治堂司村長の温かい歓迎の言葉や、ちよつと南こうせつ似(？)なシンガーソングライター豆電球さんの軽快な歌で大いに盛り上がる天然施設の交流会場。歌い、踊り、語りあいながら夜は更けていった。宿泊は馬路温泉。安田川を眺める宿泊棟は木の温もりいっぱいなのやすらぎ空間だ。温泉の泉質は創傷・火傷・リュウマチ性疾患などに効くという含食塩重曹泉。露天風呂では外気を感じながら眺めたお月さまが最高だった。

翌日10日は朝食後馬路村巡り。工場や物産販売所、加工場、ゆず園、そして馬路村役場。どこを訪ねても「よく来たね、ゆつくりして行ってね」というメッセージがご当地言葉で各所に掲げられていた。あまりの心地良さに馬路村応援団員として特別住民票を取得したためだかも数多い。

馬路村に別れを告げ、続いて向かったのは愛媛県のほぼ中央に位置する内子町。菅原敏一めだかの紹介で、内子町の町づくりで30年以上も携わってきた岡田文淑さんにお話を伺うことができた。この町にはなまこ壁を活かした八日市護国の町並みがあり、大正時代に建てられた劇場「内子座」の木造二階建て茅葺入母屋造りや、美しい泉谷地区の棚田やなども見ることができ。しかしこうした景観

の保存は想像以上に大変な苦労があること。その地域の魅力とは、形のみ創り上げられた目先の観光ではなく、住民の暮らしそのものの風情の中にこそ生き活きと輝きだしてくるものだというのを改めて知った。

特に翌朝早起きして出掛けた石畳地区の美しさは誰もがため息。山と木と花と田と、そしてそこに自然な曲線を描く屋根つきの太鼓橋。この橋はこの地区に住む人たちが力をあわせ造り上げていると聞いて驚き。自分達の土地を愛し、感謝し、誇りを持ち、美しさを維持している石畳地区の人たちの心が私達一人一人に届けられ、幸せいっぱいな気持ちになった。

内子町での宿泊は月乃家さん。人の良さがにじみだご主人と奥様に迎えられる、ふるさとへ帰ってきた気分が過ごさせてもらった。農業を営むご夫妻が新たに宿業をスタートしたとあって、食事も採れ立て野菜がふんだんに使われた季節料理がズラリと並んだ。出会いへの感謝に・・と榎原幸雄めだかがお得意の人形劇をしつかり披露。月乃家さんの娘さん、お孫さんも一緒に楽しんでくれた。

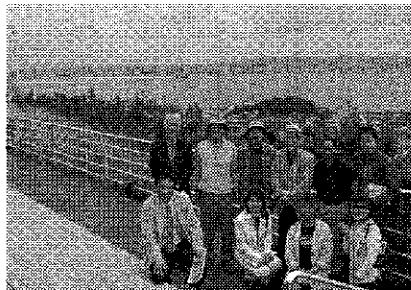
松山市では田中英樹さんをはじめ愛媛県の方達が日曜日にも関わらず町中案内をしてくれた。松山城から見下ろす町並み、お寺のすぐ脇にあるのが興味深い遊郭跡、一遍上人誕生の地といわれる豊園

山寶厳寺・・と巡り終えるころには汗だく。そこで道後温泉で一風呂浴びる。こんなに充実した四国巡りをしたのだから、「旅の締めはやっぱり讃岐うどん！」というところで、空腹を我慢し私達は一路高松の「わら家」を目指した。店に着いた途端、大盛りを注文するやら、お替りをたのむやら見事な食べっぷりのめだかたち。パワーの源は食欲。うーん流石だ。

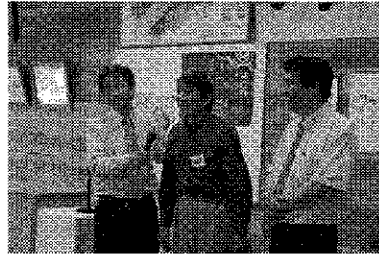
こうして四国をたつぷりと堪能し、馬路のパールビレッジを通過したのは既に午後7時。夕日が美しく私たちを見送ってくれた。となれば浜松に到着する頃にはとうに日付が変わっていたことはいうまでもない。

今回車を出し長距離運転をしてくださった榎原淑友めだか、上嶋裕志めだか、鈴木正士めだかに感謝！ また長旅の車中や行く先々でグジャレを連発してくださり疲れを癒してくれた水野忠義めだかをはじめ、一緒に楽しい時間を共に過ごしてくださいました仲間めだかに感謝！ そしてそして特に出発までの間、参加人数の確認や宿の手配、行程スケジュールなど大変な調整を一手に引き受けてくださった榎原幸雄めだかに本当に大感謝！ 残念ながら今回参加できなかつた多くのめだかの皆さん、是非またの機会をお楽しみに。

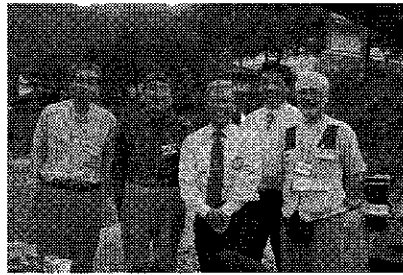
四国旅スナップ集



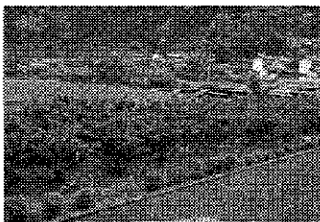
本州を離れ、淡路SAにて最初の集合写真



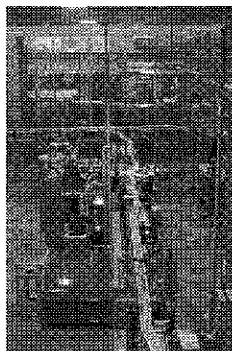
←ゆずの森は、写真におさまりきれないほど大きな建物
交流会で上治村長(中央)と一緒に・・・→



←馬路村に到着し東谷さんのお話を聞きました。交流会にてパチリっ↓



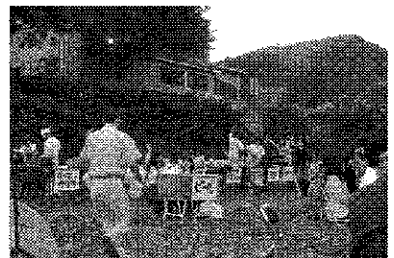
馬路村のゆず畑



整然としたゆず製品工場内



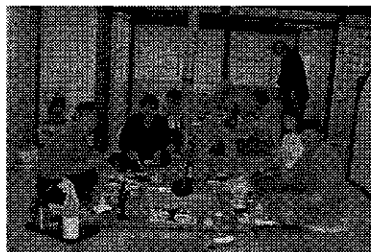
馬路村の方が用意してくださった数々の郷土料理は絶品!



←内子町の町並み。活性化の立役者である岡田さんのお話をたくさんお聞きすることができました。

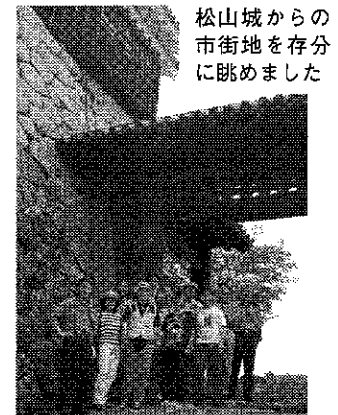
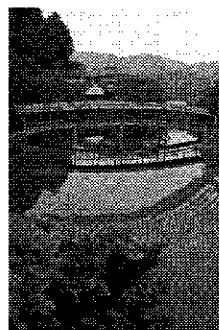


↑愛媛県の方が松山を案内してくださいました。こちらは道後温泉を堪能した後のお着替え中→



←内子町では、月乃家に宿泊しました。↓

石畳地区の景観



松山城からの市街地を存分に眺めました



←内子の町散歩の途中・・・ひとやすみ。

